

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策学部
大項目	9 教育研究等環境
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント (TA) ・リサーチ・アシスタント (RA) ・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 多人数講義(300人以上)の解消またはそれに替わる措置(院生の張り付け等)を導入する	→多人数講義科目数、多人数講義において張りつけた院生数	B	B			
2. 総合政策学科及び国際政策学科におけるゼミ室の設置またはそれに代わる共同ゼミ室を設置する	→ゼミ室等設置状況または検討状況	D	D			
3. 2012年度中に無線LANの敷設を終了する	→無線LANの敷設の有無	B	B			
4. 2号館2階の研究室スペースの有効活用策を策定し、整備を行う	→有効活用策検討状況および整備状況	D	D			
5. 教員に対して外部資金導入を奨励する	→外部資金の獲得件数	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目9.0.4	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 (説明) 学科増設後の新カリキュラムを展開中であるが、多人数講義の解消は必ずしも順調に進んでいるとは言えない。また、総合政策学科と国際政策学科の学生に対するゼミ室の設置等も必ずしも進んでいない。
☆	その他	外部資金導入については必ずしも十分とは言えない。

## 《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【総合政策学部】			単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、 授業補佐の採用数	教学補佐	人	10	14	9	14	13	他に、 (2005、2006、2007、2008年度) 契約助手1 (2009、2010年度) 契約助手2 (2011年度) 契約助手1
		実験実習 指導補佐・ 教務補佐	人	6	6	7	7	9	
		授業補佐	人	36	50	49	53	49	
指標2	専任教員の担当授業時間(平均)	教授	時間	13.8	13.0	11.7	12.6	13.3	45分をもって1時間に換算
		准教授	時間	12.9	14.1	11.2	11.3	10.8	
		講師	時間	9.3	8.0	8.5	8.3	9.3	
		助教	時間	—	—	—	—	—	

(その他の指標データ)

専任教員の研究費(実績)【大学基礎データ】

専任の研究旅費【大学基礎データ】

学内共同研究費【大学基礎データ】

教員研究費内訳【大学基礎データ】

科研費の申請・採択件数【大学基礎データ】

学外からの研究費の総額と一人当たりの額【大学基礎データ】

外部資金等導入状況【基本的な指標データ】

教員の研究室の整備状況【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの講義室、演習室の面積・規模【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの学生用実験・実習室の面積・規【大学基礎データ】

学部、研究科ごとの規模別講義室・演習室使用状況【大学基礎データ】

留学、特別研究期間制度、自由研究期間制度の利用状況【基本的な指標データ】

☆ 追加データがあれば追加してください。

## ◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	2010年度においては、多人数講義について一部でまだ解消を見ていないが、教学補佐・授業補佐等の採用はある程度進展した(計58名から67名に増加)。
	その他	無線LANの敷設等は一部を除いて完了した。

## 《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	多人数講義については、教学・授業補佐の貼り付け等で完全に解消することは難しく、カリキュラムの抜本的改正等が必要と思われる。2011年度では、教務関係の委員会では早急に改善案を検討、試行する。
	その他	無線LANの敷設や新しい授業支援サイトの整備等を通じて、教育のITC化を進め、学部教育の効率化を図る。

## ◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

★	小項目9.0.4	総合政策学科・国際政策学科のゼミ室の確保、2号館2階の研究室スペースの有効活用策を早急に策定する必要がある。
	その他	共同研究の体制を整備して、外部資金導入を容易にするための制度作りをおこなう必要がある。そのため、教員への周知を徹底するとともに、申請の際のアドバイスのあり方等を検討する。

## 《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

★	小項目9.0.4	共同研究室等整備推進委員会において、既存施設のスペースの有効活用案を作成、ゼミ室やラーニング・コモンズ的なスペースを確保することで、学部教育の効率化をめざす。
	その他	特定研究プロジェクトセンター等、共同研究の体制を作り、積極的な外部資金獲得をめざす。

## ◎自由記述

## 【点検・評価】&amp;【次年度に向けた方策】

- ★ その他 (自由記述) 2012年度で学科が完成するため、2013年度からのカリキュラムの抜本的見直しに際して、多人数講義の解消を目指す。同時に、初年次教育を中心に、TA、LA等による教育支援体制を確立する。

## Ⅲ. 学内第三者評価

## &lt;評価専門委員会の評価&gt;

## 【学外委員】

- 全般的に意欲的な取組みがみられますが、多人数講義の解消や研究室スペースの有効活用などについても更なる前進が望まれます。

## 【学内委員】

- ゼミ室または共同ゼミ室を設置することはぜひ実現してもらいたいことです。また、多人数講義の解消もぜひ実現してください。  
 ○多岐にわたる研究をするためには、適切な教室の確保が必要です。  
 ○要素や大学基準協会の留意すべき事項に沿った説明が求められます。  
 ○各目標の達成ならびに示された課題の解決に期待します。

## 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

## ○小項目9.0.4

基盤評価：「専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給している」「専任教員に対する研究室を整備している」

## ○小項目9.0.4&amp;9.0.5

達成度評価：「教育研究を支援する環境や条件が、その整備・運用状況等から見て、方針に沿い、適切である。その際、下記事項については、当該大学の特質に応じて、適切な配慮を行っている。

- ・研究専念時間の設定など、教員の研究機会の保障
- ・ティーチング・アシスタント（TA）、リサーチ・アシスタント（RA）等の人的支援
- ・研究倫理に関する規程の整備、研修会の開催、学内審査機関の設置等、研究倫理を浸透させるための措置

## Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ 2011年度に入りまして、総合政策学部全体のカリキュラム体制の整備と連動させる形で、学生向けのゼミ室の整備にむけての実施計画を作成中であり、引き続き努力を進めていく予定です。  
 それにあわせて、大学基準協会等からの指摘された事項についても具体策を検討・実施して行く予定です。